



「会長挨拶」  
横須賀水交會会長 長崎 嘉徳



横須賀水交會会員の皆様におかれましては平成二十一年の新しい年を迎えられ益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年来より世の中は世紀に一度という経済危機に見舞われ、日本経済も大企業の正社員でさえ解雇の憂き目を見る惨状にあります。現下の状況から経済対策は喫緊の課題であり社会不安を安定化させることが望まれとところであります。

一方、このような状況下であるからこそ本年は、原点に帰り過去半世紀以上にわたり疎かにされてきた日本人の誇れる精神文化の再構築に目を向ける時なのではないでしょうか。さらに国家の安全保障政策の再構築についても然りであります。

これらについて述べる前に今年の水交會の現状についてご報告申し上げますと、『(財)水交會の公益法人への移行手続き業務、横須賀水交會独自業務として「海自OBの再(再)就職支援事業」「会員相互の親睦事業の拡充」等を例年の事業にプラスして推進して参りたいと思っております。』業務内容については次号の新聞等で担当理事から紹介して参りたいと思っております。

さて、精神文化の再構築は古事曰く「衣食足りて禮節を知る」とありますが今の日本人は果たしてそう

発行 平成21年3月23日  
編集 横須賀水交會事務局

なのでありますでしょうか。政治家、官僚、経済界等何処を見ても甚だ疑問を抱かざるを得ない状況ではないでしょうか。衣食足りて「礼節」を忘れるどころか「礼節」を元々身に付けていないのが現状なのかもしれません。ここに教育問題、特に教育の三本柱の一つである「徳育」を戦後教育で置き忘れてきた所に問題があります。

教育の三本柱は「徳育」「体育」「知育」であります。我が国の戦後公教育は「徳育」を否定し「体育」を疎かにし偏った「知育」を教え込んだことは周知の所であります。

最近某先輩から頂いた「チャーチルが愛した日本」(関榮次著)に、宰相ウインストン・チャーチルが終生日本に好意を持ち愛着し、彼の言行の奥底には日本への公正で深い理解と温情といえるようなものが、生涯を通じて貫流していたと述べられています。明治二十七年チャーチルの両親は世界一周の途次日本を訪れ、日本の人・自然・歴史・文化

横須賀水交會主要行事予定

本年7月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いします。

1 練習艦隊入港歓迎行事

(1) 期日 4月1日(水)

(2) 場所 吉倉岸壁

2 理事会

(1) 期日 4月11日(土)

(2) 場所 厚生センター

(3) 会議後、懇親会

3 21年度総会・講演・懇親会

(1) 期日 5月15日(金)

(2) 場所 よこすか平安閣

4 馬門山墓地墓前祭

(1) 期日 5月16日(土)

(2) 場所 市営馬門山墓地

5 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(水)

(2) 場所 ヴェルニー公園

6 第18回ゴルフ大会

5月(計画中)

にすっかりほれ込んだ。その際の母の日本旅行記と回想録には美しく静謐な自然、歴史と伝統、優れた美術と工芸、振る舞いがしとやかです

つましく声色の穏やかな女性、勇気と礼讓の男達の国と克明に記されており、この日本の印象がそのまま母からチャーチルに伝えられ、彼の若き脳裏に終生消えることのない日本の映像として焼き付けられたと言う。

現下の日本を見た時、当時の思慮に富んだ温和な政治家はじめ国民の高潔な志操に隔世の感がするのは私一人ではないと思う。

これは何に起因するものでありましょうか。正に教育の三本柱を忘れた公教育によるものであり、敗戦による自信喪失のその時期に日本人そしてその教育は駄目だったとする事から出発した劣等感意識の刷り込み、歴史の負の部分強調した教育、公より個人を中心とした教育さらに家族間でも「親の子供」ではなく「親と子供」といった親と子供は同等であるとした家族解体を計っている教育、これは正に日本解体を狙った教育そのものであり、そこからはチャーチルの母がほれ込んだ様な歴史と伝統、文化は生まれては来ません。

可愛い手紙を見せてもらった。その孫娘は今年四月に小学校に入学する幼稚園児で家ではカノタンの愛称で呼ばれているそう。その手紙にはたどたどしい字で「パママへいつもかのたんのためにパパはおしごとがんばってくれるしままわおりようりしてくれるしみんなありがとう。いつもいつもだいすきよ」「ままへままおたんじょうびおめでと かのたんはままのことがいちばんだいすきよ。いつもままかのたんのためにおせわしてくれてどうもありがと。」とあり読ませてもらった瞬間、目頭が熱くなったものである。五歳児といえはお世辞も言えない年齢と聞く。しかしここには幼児ながら両親へ心からの感謝を述べている。その両親は私の近所に住み良く知っている家庭であるが特段の家庭ではなく、何処にでも見られる普通の家庭であるが、愛情豊かに育てている両親の姿に時折遭遇する。ある時その孫娘が通っている幼稚園の運動会を知人に連れられ見に行ったことがある。園児を前にして挨拶する園長の話を耳を傾けると園児自らの健康を褒め称

え、両親への感謝、更にこの運動会へ応援に来てくれた祖父母、兄弟への感謝等が縷々述べられていた。そして最後に園児達が園長の言葉に続いて感謝の言葉を合唱して運動会が開幕となった。

知人に連れられた運動会で知人の孫娘の手紙をオーバールラップさせながら再度得心し、この園児らの将来に大きな夢が託せると確信したものであります。

学校教育そして家庭教育での徳育、体育が如何に重要であるか、今の公教育が忘れそして偏向している教育三本柱の現下の情勢下では育つ子供も育たず、青少年期の犯罪が益々多くなって行くことを危惧するし、日本国民として国に誇りをもち得ない大人が益々多くなっていくことは国家の危機問題そのものではないでしょうか。

今年は教育問題にも変化の兆しが現れて来ることを期待したいものである。

国家の安全保障政策では独立国家でもあるにも拘らずその安全保障政策はお寒い限りであります。自衛隊が海外に出動し日本国家、国益

の為、隊員が生命の危険を賭して活動しているにも拘らずそれを政争の具にしている国家政治、帰国した制服隊員達に感謝の誠を捧げる訓辞も出来ない為政者、文民統制の権限をかざし自衛隊組織を押さえ込み隊員個々の言論統制まで踏み込もうとした論調の為政者、田母神前空幕長の人間性を無視した異常なまでの解任劇は制服隊員達の誇りを奪い、彼等の理にかなった不満が士気の低下を招き防衛力に不安を残す遠因ともなっている。日本国家の屋台骨がどこか狂ってしまったているのではないだろうか。

今年1月に就任したオバマ米大統領はその就任演説で「我々の前に広がる道について考える時、今の瞬間にも遙か彼方の砂漠や遠くの人々をパトロールしている勇敢な米国人達に、心からの感謝を持って思いをはせる。彼らは、アーリントンに横たわる亡くなった英雄達が、時代を超えてささやくように、我々に語りかけてくる。我々は彼らを誇りに思う。それは、彼等が：奉仕の精神、つまり、自分自身よりも大きい何かの中に進んで意味を見

出す意思を体現しているからだ。これこそが時代を決するこの時に、我々すべてが持たねばならない精神だ。」と国民に語りかけている。

国益を考えた時、戦後六十有余年を経た今日、日本の常識が世界の非常識とならぬよう独立国家としての我が国の安全保障政策を再構築しなければならぬ時期はすでに来ていると考える。

東西冷戦当時の緊張を打開に導いたレーガン政権のシニョラミ国務長官の主張は「外交なき力は成り立たない。力なき外交も成り立たない。」というバランスのとれた現実的な手法であったことに我が国の為政者はそろそろ着目すべき時ではないだろうか。

陸・海・空自衛隊の軍隊としての地位向上、隊員たちの誇りの構築に向け横須賀水交会としても微力ながら力を注いで行きたいものである。会員皆様の一層のご支援に願います。

今年には衆議院選挙それに6月には横須賀市長選挙が行われます。

二期目の選挙に立候補した現浦谷横須賀市長は日米同盟の元での

安全保障政策に高い見識を持ち、住民投票で住民を二分することなく円滑に米原子力空母G Wの横須賀母港化を推進し、首長としてのそのリーダーシップは高く評価できるのではないのでしょうか。

「司令官挨拶」

護衛艦隊司令官 河野 克俊



横須賀水交会の皆様には、日頃から護衛艦隊の諸活動に對しまして、格別のご支援、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。この機会をお借りいたしまして心から御礼申し上げます。

私は、昨年11月7日付で掃海隊群司令から護衛艦隊司令官に就任いたしました。艦艇部隊指揮官から再び艦艇部隊の指揮を執らせていただくことになり、誠に光栄に感じ

るとともに身の引き締まる思いであります。

海上自衛隊は昨年3月から体制を大きく変更いたしました。これに伴い護衛艦隊司令部はいわゆる海上司令部から陸上司令部となり、その任務は主としてフォースプロバイダーという立場から部隊を練成、訓練し、フォースユーザーである自衛艦隊司令官及び各地方総監へ高練度部隊を提供することであり、もちろんフォースユーザーに対してオペレーションに関する補佐をすることも任務に含まれております。

私は、護衛艦隊司令官として「精強」と「伝統の継承」を勤務方針として示しました。任務を遂行するためには、もちろん「精強」でなければなりません。これこそ部隊の存在意義であると思います。今後ともフォースプロバイダーとして任務に即応できる部隊の練成に努めてまいる所存です。それに加えて先輩が築き上げられた「よき伝統」を受け継ぎ、それを次の世代へ繋いでいくことも現役の非常に重要な務めであると考えております。現在の護衛

艦隊の実力は、現役の隊員のみで培ったものではなく、諸先輩方が築き上げられた伝統の上にあるということ再認識すべきであると強調しております。

今後とも精強な護衛艦隊を目指して先頭に立って全力を尽くす所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「横須賀市議会便り」

横須賀市議会議員

木下 憲司 理事



現下のわが国の社会情勢ですが、将来の不透明感、そして不安感が「ちまた」に溢れていると思います。経済情勢は、昨年夏頃は原油価格の高騰や、食料価格の急騰で大慌てしたものが、昨年9月以来の米国発の金融危機は米国経済を失速させ、その影響は世界中に波及し、我が国

においても円高ドル安、輸出不振と資金繰りの悪化は企業を直撃し、これまでの優良企業が赤字に転落するなど、大混乱に至っています。また、その結果雇用情勢が悪化し、「派遣切り」などといわれる雇用不安を生んでいます。

また、政治の場ではアメリカではオバマ新大統領が就任し、チェンジをスローガンにこの不況を乗り切ろうとの意欲が見える一方で、わが国では衆参ねじれ現象などにより国政が停滞、混乱している現状は、皆様ご承知のとおりであります。

これを称して「百年に一度の不況」などとよくいわれますが、少子高齢化、人口減少が進む中、我が国は人類が未経験の社会、経済次元へ踏み込んでいっているのではないかとはいわれます。

横須賀市においても、このような情勢は同じどころか、さらに厳しく影響を受けています。この状況を打開するため、横須賀市では約20億円の緊急経済対策を、20年度補正予算として提出しました。中小企業への金融支援や、農業・漁業への支援など多岐にわたりますが、市民生

活支援のためのプレミアム商品券の発行も含まれています。

いずれにせよ、この不況は横須賀市の行財政改革への逆風であることは確かです。また、6月には市長選挙も予定されています。このような諸般情勢が流動的な中、私自身、自衛隊出身の市議会議員として、軸足を定めて議員活動を進めて行きたいと思っております。

#### 防衛諸団体合同新年賀詞交歓会を開催

防衛諸団体共催による恒例の新年賀詞交歓会が、1月17日(土)の午後、平成町にある横須賀商工会議所において開催された。

この防衛諸団体合同賀詞交歓会は、横須賀地区の防衛関連10団体が近傍の自衛隊指揮官等を招待して新春の賀詞を交換するとともに、陸・海・空自衛隊を激励し、あわせて諸団体・会員相互の親睦を図ることを目的に例年実施しているものである。本年は横須賀水交會が主幹事として作業にあたった。当日は晴天に恵まれ、来賓を含め

約250名もの多数の参加を得て、盛大に行われた。まず、開催に先立ち共催の防衛関連10団体、横須賀防衛協会、隊友会横須賀支部、財団法人三笠保存会、海上自衛隊横須賀曹友会、横須賀自衛官募集相談員の会、桜友会、晨洋会、三浦半島地区自衛隊父兄会、横須賀海交會及び横須賀水交會の会長等が壇上で紹介された。

式典は、国歌斉唱に始まり、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協会会長の挨拶、来賓を代表して蒲谷横須賀市長及び半田横須賀地方総監の祝辞、来賓の紹介、祝電披露、乾杯、懇談の順で進められた。式辞においては、蒲谷横須賀市長から、「昨年は原子力空母の母港化など大変な年であったが、横須賀は防衛省・自衛隊及び米海軍と共栄する防衛拠点の都市として、これらをプラス思考に捉え、他の街にはない新たな文化を発信する都市としての発展を図りたい。」との決意が述べられた。

自衛隊代表の半田総監からは、「海上自衛隊は一昨年以來の事故、不祥事に鑑み、組織の根幹たる人に

焦点を当てた抜本的改革に着手した。今年は、精強な海上自衛隊の構築のため、真摯に改革に取り組み、信頼回復に努めるとともに、国民の負託にこたえる所存であり、皆様の支援をお願いします。」との力強い決意が述べられた。

また、来賓の紹介においては、佐藤、大石参議院議員、山口市議会議長及び五百旗頭防大校長から短い挨拶を頂いた。特に、佐藤議員からはソマリア沖派遣について言及があり、海上自衛隊の活躍への期待が述べられた。

鏡開きは、横須賀水交會会員で菊水酒造(新潟県新発田市)会長 高澤英介氏から寄贈された菊水の四斗樽を、五百旗頭校長、ケリー在日米海軍司令官ご夫人、蒲谷市長、半田総監及び小山会長が囲み、「一、二、三、ヨイショ!」の掛け声で、力強く行われた。泉自衛艦隊司令官の発声による



乾杯の後、懇談は樽酒のお陰もあり、大いに盛り上がり、現役、会員等お互いの親睦を十分に図ることが出来た。最後は防衛大学校幹事の君塚陸将の乾杯で、惜しみつつ中締めとなった。  
(岩永理事 記)

### 補給艦「ときわ」インド洋へ

3月16日、補給支援特措法に基づきインド洋方面における、各国海軍に対する給油活動を実施するため、補給艦「ときわ」(艦長 高森安生 2佐・乗組員約140名)は横須賀を出港した。第3護衛隊司令 眞鍋 浩司 1佐が派遣部隊指揮官として乗艦している護衛艦「あけぼの」(呉 17日出港)と洋上で合同し任務行動に赴く。両艦は、護衛艦「ありあけ」補給艦「とわだ」と4月上旬現地で交代する予定である。蒲谷横須賀市長、山口横須賀市議会議長、防衛関連団体等の長などが出港行事に参列され、盛大な出港行事が行われた。泉自衛艦隊司令官、半田横須賀地方総監、河野護衛艦隊司令官他多くの指揮官、隊員及び家族とともに、

長崎嘉徳横須賀水交会会長以下多数の会員で見送った。



軍艦行進曲により、乗組員は整齊と乗艦し、極めてスマートに出港した。帽振れにあわせ、自衛艦旗の小旗、水交会旗が振られ、超長一声の汽笛が響く出港であった。「ときわ」にとって任務行動は、イラク特措法による行動開始後、1年4ヶ月振りで、6回目であり、乗組員の中には5回目という、猛者というかインド洋の大ベテランが5名おられるとのことであり、さらなるご健闘を祈る。任務行動を通じて、各国海軍のゆるぎない信頼をさらに強めてもらいたい。出港前、士官室において、水交会からの激励品を長崎会長から艦長へ贈呈した。艦長からは任務遂行にあたり力強い発言があり海上自衛隊健在なりと感じ入った次第であ

る。

国際テロの根絶のため、国益のため、はるか遠いインド洋において、厳しい環境下、長期間に渡り、目立たない地味な行動に従事することに対し、深甚の敬意を払うものである。司令、艦長はじめ乗組員の皆様、誠にご苦勞様です。任務達成を祈ります。  
(本多副会長 記)



「お尋ね」

横須賀基地業務隊庁舎前の砲弾について

横須賀基地業務隊庁舎前(横基業門から約50メートル程左側)に設置されている砲弾記念碑



(写真)について紙面を借りてお尋ねします。

この砲弾は、高さ147センチ、直径約40センチであり、戦艦長門の主砲に合致しますが、横監などには、その設置したいきさつや経緯など記録がないとのことでした。

この砲弾について、御存知の方は横須賀水交会事務局(090-4842-7668)又は横監総務課(046-822-3500(内線)2259)へお知らせ下さいませようお願いします。

いわれなど判明した後、銘板を設置する予定であり、調査に御協力をお願いいたします。  
(本多事務局長 記)

### 「カード同好会新年会」

横須賀水交会カード同好会は、1月21日に横須賀市汐入にある総合福祉会館に於いて、新春恒例の新年会を実施しました。参加者は今回初参加の西本勝昭氏を含めて14名でした。当日は午前10時に集合直ちにプレーを開始し、その間に満尾理事が準備を進めて昼休みに今年一年の活動を確認した後特注のお弁

当を囲んでビールで乾杯し、懇談しました。午後のプレーはお酒の勢いもあつてかなり盛り上がりました。

今回の優勝者

は鈴木氏、二位は福田氏、三位は村上女史でした。そしてこの日のブービー



メーカードは、お名前は控えますが、同好会が始まって以来のワーストレコードマイナス72点でした。当人は「新年早々からこんな調子では、今年一年の活動が思いやられる」とぼやいていました。ともあれカード同好会は今年も活動を続けますので、気軽に覗きに着てください。(岩岡理事 記)

【カード同好会のご案内】

1 実施日時 毎月第3水曜日

午後1時～5時

2 場所 横須賀総合福祉会館

(汐入)

3 世話人 満尾 哲郎

(046・843・0506)

岩岡 光

(045・788・5313)

「卓球部の活動状況」

横須賀水交會卓球部は、横須賀市北体育館(夏島町2番地)で、毎月第1及び第3土曜日の9時から12時まで、毎回二十数名の会員が参加し、和気あいあいと卓球を楽しんでおります。

会員は八十歳を超える大先輩から六十歳台まで、また、遠くは東京から三浦まで広範囲の地域から集まり、月2回の活動を楽しんでおります。

会の活動も更に技術力を高めようとコーチ陣が練習方法も工夫し、部内外の試合にも手を広げて行こうと計画しています。



(女子をコーチする松本会員)

基本的には、卓球同好会の集まりですが、時には、卓球は激しく動く場合もあり、瞬発力を育て、若さを維持する原動力と確信しております。「初心者でもかまいません、会員の参加をお待ちしております。」

世話人 佐々木 清一郎

(0468・88・6716)

本年度就役艦艇

(艦艇名、就役日、建造所)

1 護衛艦「ひゅうが」(新型DDH)

3月18日、IHIMU

2 潜水艦「そうりゅう」(新型)

3月30日、三菱神戸

3 掃海艇「やくしま」

3月6日、ユニバーサル京浜

訃報

昨年10月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

長瀬益造(部内2)

10月14日

山田直(公募海曹8)

1月12日

(本多副会長 記)

新(編)入会員(10月～2月)

次の方々横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

(敬称略)

井坂光明(有志) 榎本英雄(有志) 廣江 清(幹候26) 坪常昭(幹候29) 川村 宙久(幹候28) 佐藤 百枝(有志) 内橋 俊浩(幹候16) 長谷川 洋(幹候25) 佐々木 守(横教179) (本多副会長 記)

【編集後記】

3月14日、海賊対処のため、第8護衛隊司令五島1佐を指揮官に護衛艦「さざなみ」、「さみだれ」が呉からソマリア沖へ、また、補給支援活動に従事している派遣部隊との交代のため、16日には補給艦「とさわ」が横須賀から、翌17日には護衛艦「あけぼの」が呉から、第3護衛隊司令真鍋1佐を指揮官としてインド洋へ、出港した。さらに、北朝鮮のBMD対処のため、イージス艦が日本海で実任務に従事するといわれている。我が国のシベリアンコントロールの未熟さから、大きな制約を受けながらの実任務には多くの困難・苦勞が伴うであろうが海上自衛隊には、我が国の国益・海上防衛のために、ここはやせ我慢でがんばってもらいたい。無事の帰国を祈念します。(岩永理事 記)